

- \*「すべての人を照らすそのまことの光が世に来ようとしていた。」（ヨハネ1：9）まことの光とはイエス・キリストのこと。それは、一番明るくて、絶対消えない光である。太陽とて神が造られたもののひとつであり、永遠ではない。数十億年先には無くなると言われている。神が人となられたイエスこそ根源の光、最も美しい光、永久に消えない光である。そのような光が来たのがクリスマスである。  
この光は「すべての人を照らす」。先ずイスラエルの民を照らすためであったが、異邦人をも照らし、全人類を照らす。私も、私の家族も、友人も嫌いな人にも、敵ですらも平等に与えられた光なのである。これを受け取らないで投げ返した者もいたが。感謝して受け取った人もいた。
- \*まことの光は私たちの心の内側を照らす。私たちはこの光から遠ざかる性質もあり、求めて向かっていく性質もある。まことの光は私たちの心の内側を照らすので、心の闇、汚いところをさらけ出される。光であるイエスに近づけば近づくほど、私たちの罪が明らかに示される。それが嫌なので遠ざかろうとするのである。しかし、実は照らし出されることは良い事であり、必要な事である。自分の中の罪を認識すること無しには罪から解放されることはないからである。
- \*まことの光は私たちの外側を照らす。この光は私たちの足元を照らし、どの方向にどのように歩いたらよいかを示してくださる。「あなたのみことばは、私の足のともしび、私の道の光です。」（詩篇119：105）  
私たちは、この「世」は悪がはびこる闇であることを日々実感している。しかし、イエス・キリストはそんな世に光として来られた。私たちの生き方の根本を教えてください。それは希望の道であり、平和の道であり、愛の道であり、天国に向かう道である。
- \*野田詠氏さんは、十代の頃、悪に染まり、4度逮捕され、少年に行った。心はいつも空しかったという。そんな時に、神の目にはすべてが裸であり、さらけ出されている、という聖書のことばに触れた。彼は変えられ、神学校を出て牧師になり、厚生支援や児童福祉の働きに従事しておられる。2つの間違った生き方がある。一つは、どうせ暗い世の中なのだから自分勝手に生きればよいという生き方。もう一つは、あきらめて、ただ消極的に惰性で生きる生き方。正しい生き方は、光であるイエス・キリストを救い主として希望の内に生きる生き方である。「光は闇の中に輝いている。闇はこれに打ち勝たなかった。」（ヨハネ1：5）この光は「愛の光」であり、生きる意味や喜びを見出す光である。